

## 第 8 回 大橋川改修に関する環境検討委員会 議事要旨

【 】開催日時 平成 19 年 12 月 25 日（火） 14:00～16:30

【 】開催場所 松江テルサ テルサホール

### 【 】出席委員

島根大学生物資源科学部教授	相崎 守弘
鳥取大学地域学部長	岡田 昭明
島根大学汽水域研究センター長	國井 秀伸
島根野生生物研究会	越川 敏樹
島根野生生物研究会	佐藤 仁志
島根大学総合理工学部物質科学科准教授	清家 泰
島根大学副学長	高安 克己
日本野鳥の会鳥取県支部理事	竹中 稔
鳥取大学地域学部地域環境学科教授	鶴崎 展巨
NPO 島根県在来魚保護協会専務理事	中村 幹雄
中央大学研究開発機構教授	福岡 捷二
鳥取大学工学部社会開発システム工学科教授	細井 由彦
鳥取大学名誉教授	道上 正規 < 委員長 >

### 【 】配布資料

資料 - 1 議事次第  
資料 - 2 第 7 回 大橋川改修に関する環境検討委員会 議事要旨  
資料 - 3 環境調査一次とりまとめ（案）（パワーポイント）  
資料 - 4 環境調査一次とりまとめ（案）抜粋版  
資料 - 5 環境調査一次とりまとめ（案）（本編）  
資料 - 6 大橋川改修に関する環境調査の進め方

### 【 】議事次第

1. 第 7 回 委員会意見概要
2. 大橋川改修事業環境調査一次とりまとめ（案）について
  - 2-1. 水環境
  - 2-2. 動植物・生態系（直接改変以外）
3. 質疑応答
4. その他

## 【 】議事概要

### 冒頭委員長挨拶

- ・ 当該事業は環境影響評価の対象となる規模では無いが、地域にとって重要で、様々な環境変化も予測されることから、環境影響評価法に準じて行っている。

### 1. 第7回委員会議事要旨の確認

< 委員一同 異議なし >

### 2. 大橋川改修事業環境調査一次とりまとめ（案）について（PPTでの説明）

#### 2-1. 水環境

- ・ 大橋川改修による影響をトータルで判断できるように説明していただきたい。
- ・ 検討した水環境の結果を一覧できるマトリックスがあるとわかりやすい。< 委員長 >
- ・ 水質の変化の中で塩分濃度の上昇が生物に影響を与えることが想定される。特に植物プランクトンなどへの影響が懸念されるので、よく検討すべきである。
- ・ バックグラウンドについて、尾原ダムや斐伊川放水路はどのようにシミュレーションへ考慮されているのか。  
調査計画書に記載している既決の運用ルールに沿ってシミュレーションで考慮している。< 事務局 >
- ・ ダムによる水質変化についても、シミュレーションに考慮しているか< 委員長 >  
変化を考慮している。< 事務局 >
- ・ バックグラウンド完成より大橋川改修が先行した場合や、工事を並行して行った時は、塩分上昇による影響は予測より大きい時期がでるのではないか。  
塩分濃度に大きく寄与するのは渇水時のダムによる水の補給である。  
事業の進捗を考えるとダムが先に完成する可能性が高く、塩分濃度が予測以上に高くなる途中段階が生じる可能性は低い。< 事務局 >
- ・ 水環境の予測結果は、うまく表現できていると判断できるが、トータルで判断できる図を事務局で整理することが必要。< 委員長 >
- ・ 予測結果については事務局ではなく委員会で判断するという事ではないのか。
- ・ 水環境の予測結果については、委員各位にこの内容で認めて頂いたとして、事務局で解りやすいマトリックスを作成し委員会に諮る。< 委員長 >

## 2-2. 動植物・生態系（直接改変以外）

- ・ 塩分濃度上昇に対して、宍道湖のヤマトシジミへの影響はどうか。＜委員長＞  
>  
文献より整理した生息可能な範囲に、改修後の塩分も含まれるため生息環境は維持されると予測している。＜事務局＞
- ・ 1.3psu の塩分上昇は、シンジコハゼそのものには影響ないと思われるが、近縁種であるピリンゴとの生態的な相互作用が働く懸念があるため、あらゆる場合を想定しておく必要があるのではないかと考える。
- ・ 予測しきれない部分があるので、わからないことについては、モニタリングを実施していく姿勢を示す必要がある。
- ・ 生物の関係は予測どおりにいくかどうか解らないので、モニタリングを是非実施していただきたい  
次回、説明の予定としています。＜事務局＞
- ・ ヤマトシジミとホトギスガイのせめぎ合いの境界塩分や上流側にシフトする頻度などについて、漁業者への説明としてもっと高い精度で予測すべきではないか。
- ・ 平均値のみの議論ではなく、影響が大きい洪水時や渇水時などの異常時の不確定要素を踏まえたうえで平均値の議論をし、かつ、モニタリングを実施していくことが重要である。＜委員長＞
- ・ 解析については、相当精度が高いものと考えられる。これ以上精度を上げる必要はなく、むしろ説明に工夫が必要である。
- ・ 説明の仕方が重要である。
- ・ モニタリングの結果はどのように反映されるのか。将来的に事業に反映されるということか。  
予測結果と観測結果を確認しながら段階的に事業を進めていくこととしている。＜事務局＞
- ・ 仮に塩分が非常に上昇し、シジミに悪影響があるなどの問題になれば、再度検討していくこととなる。＜委員長＞

## 3. その他

- ・ 次回委員会において、「一次とりまとめ」の残りの部分及び水環境のトータルな予測結果について事務局より説明。

以 上